

2019年6月26日(水)

老球の細道489号

ミニバスケットボール会津地区大会雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

早くミニバスケットボールの仲間入りが楽しみな我が家の孫たちは最近ドリブル遊びに興味を持つようになってきた。夕方、家の前の道路で外用の7号ボールを使ってドリブルをやらせてみた。すると4歳の孫娘は左右の手で10回以上できるようになり、2歳の孫息子は左手で5回やれるようになった。同時に、どこで覚えたのかわからないが「ノールックパス」もやる。爺馬鹿なのか、ふと「八村塁に次ぐ日本人2番目のNBAドラフト選手会津から誕生!」と20年後のバスケットボール通信の題目が脳裏に浮かんだ。

2週間に渡る会津総体ミニバスケットボール大会が終了した。クリニックで関係するチームや子ども達、そしてこれからデビューする孫たちのために、時間を見つけて観戦するようにしている。

今大会は男女ともトランジションの速いチームが優勝した。最近会津地区のミニ、中学の試合は、チームのエースが1人でボールをコントロールして、それに対して周囲が合わせるというスタイルのチームが上位を占めていたが、皆で走り、皆で攻撃の原点に戻った。

女子はあいかわらず両手でシュートをする選手が多い。特に身長が大きくても両手でシュートすることに甘んじている選手を見ると忍びない。コーチはできればワンハンドでやらせたいのだろうが、選手が思うようにできなかつたり、世界基準に順応しようとする気がないと諦めてしまうのだろうか。選手がやろうとしないからといって、次なるステージで通用しないことに甘んじていることを見過ごすことはコーチとしてできない。

大会が終わった後には必ずやらなければならない儀式がある。選手もコーチも同じ「か・き・く・け・こ儀式」である。

「か」んしゃ(感謝)する。今大会無事終了できたことに大会運営関係者、チームスタッフ、審判、保護者、コーチ、選手皆に感謝しよう。感謝なくして向上なし。

「き」ろく(記録)する。ゲームの結果、良かったところ、悪かったところ、これからの課題など、忘れないうちにノートに記録しておこう。男子のあるゲームの終了間際で、今年の福島県高校体育大会決勝(福島南VS福島東稜)の1点差を争うフリースローと同じシーンが出てきた。そしてミニのゲームも同じような逆転劇で幕切れをした。同じような失敗をしないためにも記録を残しておく。準備なくして成功なし。

「く」(苦)あれば楽あり、楽あれば苦あり。今大会の勝敗に一喜一憂しないで、本当の勝負は大人になってから、社会に出てから。ミニバスケットボールの神髄は「将来を見ずえる」ことである。心も体もできあがった時の勝負、社会に出てからバスケットボールで培った社会スキル、人間力で勝負する時の準備である。どこかのキャッチフレーズでないが、年金と年筋、そしてバスケットなくして人生100年なし。

「け」んこう(健康)あつてのバスケットボール。試合後のアフターケアを入念にする。食事、着替え、ストレッチ、睡眠等。健康、元気でなければ練習の成果なし。

「こ」(コ)コミュニケーションはバスケットボールで。帰宅後の夕食の「おかず」は試合あれこれ。上手にできたこと、できなかったこと、うれしかったこと、口惜しかったことを話す。保護者は「聞き仏」に。ビタミン愛、ワンパク質満載でメンタル肥満。